

2018 年度 中国派遣留学報告書

実習先：北京師範大学

実習期間：8月27日～1月7日

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017083
玉木 真輝

目次

1、留学先及び実習期間	3
2、留学先概要	3
3、留学の目的	3
4、留学内容	4
4-1、実習のスケジュール	4
4-2、実習の詳細	4
5、所感	6
6、終わりに	8
謝辞	8

1、留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学部

留学期間：平成 30 年 8 月 27 日～平成 31 年 1 月 7 日

2、留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は、中国の首都北京にある大学であり、世界一の人口を誇る中国の首都であるため、在籍する生徒の人数も非常に多い大学である。学部も語学系、経済系と多くあり、語学に関しては様々な国からの留学生も多く受け入れているため、校内では、頻繁に他国の留学生と会う機会が多い。

また、12 月には、「北京留学生之夜」という、各国の留学生によるダンスや歌等を披露する校内行事も行われる。

(2) 大学で行われている教育について

北京師範大学では、語学、その他のコース共に非常に質の高い授業が受けることができると言われている。今回お世話になった漢語文化学部では、授業前に実施されたテストの結果に基づいてレベル分けされた少人数のクラスで授業を受けるといったものであった。また、この漢語文化学部は留学生が非常に多いことが大きな特徴である。そのため、クラスには留学生の生徒のみとなっている。生徒 1 人 1 人に合ったレベルのクラスに在籍するため、中国語を始めたばかりでも確実に中国語力を上げることができる。

(3) 留学の目的

今回の留学の目的としては、まず中国語力を向上させることを第一に、中国語を使つての会話をこれまでよりスムーズに行えるようにすること、中国語検定や HSK を受験するにあたり、それぞれ合格という結果を残せるよう、現地で直に、積極的に中国語を話すということや、中国の様々な文化を学び、理解すると共に、日本の文化や風習も伝えるといったことも目標に掲げていた。日本と中国の関係は古くから存在し、日本にとって中国は関わりの深い国の 1 つである。そのような国に今回 4 ヶ月という長い期間留学をさせてもらえる機会を頂いたからには、目に見える成果、実感できるような成長をしなければならないと留学前から考えていた。

更に、現代においてテレビなどのメディアによる日本人の中国人に対する印象が悪いものへとなくなってしまっていることも気になっている。メディアによって植え付けられた偏見や先入観を払拭したいという気持ちも持っていた。

(4) 留学内容

4-1 実習のスケジュール

以下から、留学の内容を記述する。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限		リーディング			スピーキング
2 限		スピーキング		スピーキング	リーディング
昼休み					
3 限	リスニング		リスニング	リスニング	
4 限	リーディング				

この表は1週間の授業の時間割である。

次に、その他の活動などを記述していく。

8月27日 到着

9月8日 日中交流会 新入生歓迎会

9月22日～24日 内モンゴル旅行

10月1日～7日 国慶節

10月8日～北京留学生之夜練習開始

11月12日～17日 江西修学旅行

12月16日 北京留学生之夜

12月28日 忘年会

1月7日 出発 帰国

4-2 実習の詳細

(1) リスニング

リスニングの授業では、毎回教科書の本文の音源を聴きながら、再生された部分を声に出して読み、本文の内容を終えると復習として問題を解いたり、中国語を聞いて理解する力を養う授業であった。

(2) リーディング

リーディングの授業では、基本的に教科書内の本文とテキストの問題を解きながら進めていく授業であった。また、章ごとに出てくる新出単語の使い方や応用を学ぶため、その単語や文法を使い、短い文を作るというものも頻繁に行っていた。

(3) スピーキング

スピーキングの授業では、新しい章に入る度に先生が読んだ単語を聞き取り、書き取るというものや、クラスメートと本文を読みあつたりと、中国語を使つての会話を中心に行う授業であり、この授業により、会話力がかなり向上したと実感している。

(4) 日中交流会

国際情報大学の生徒と、北京師範大学の日本語学科の学生による、交流会であった。どちらも発表する出し物を事前に準備しており、中国人の生徒とグループになり会話する時間もあり、それぞれ中国人の友達を作る非常にいい機会を用意していただけた。

(5) 新入生歓迎会

中国では、9月が入学シーズンのため、北京師範大学に在籍中に日本人学生による日本人会という方々に日本人の留学生、新入生を迎え入れるための食事会とパーティーを兼ねたものであった。

(6) 内モンゴル旅行

内モンゴルに1泊2日で旅行するという企画に本大学の生徒全員で参加した。現地では乗馬やラクダに乗るなど、更に内モンゴルの郷土料理を食べるという機会も設けていただき、中国国内でも北京とは違った文化に触れることができた。

(7) 国慶節

日本のゴールデンウィークのようなもので、1週間の間授業がない期間であつ

た。この期間、日中交流会で仲良くなった中国人の方々に様々な観光地に連れていってもらえた。

(8) 江西修学旅行

11月12日から17日までの6日間、中国国内の江西という地方に修学旅行で訪れた。江西は陶器が名産物で、陶器の博物館を何軒か訪れたり、三清山という山に登ったりと、様々な活動をし、地方の文化などを学ぶいい機会になった。

(9) 北京留学生之夜

12月16日に行われた、北京師範大学に在籍している国の留学生による歌やダンスを披露する校内の行事であり、今年度は本学から4人が日本人の演者として参加した。国慶節が明けてから約2ヶ月間ダンスを1から練習し、本番に臨んだ。

(10) 忘年会

これも日本人会の方々が企画してくださり、国際情報大学の学生にとっては留學生活の締めくくりや日本人会の方々に感謝を伝えることができる機会になった。

5、所感

以下から、この留学に行くにあたっての目標の達成度や反省などをまとめていく。

目的の達成度

1) 中国語力を向上させる

この目的の達成度は非常に高いものだと考えている。実際に日樹生活の中や授業中の先生の話を目に目に理解することができている実感を感じれたことが何より大きいと思っている。中間テストや期末テストに関しても問題を理解できないということは全くなく、スムーズに問題を解いて行くことができた。

会話という面においても、授業中に学習した文法を日常会話の中で活用することができたりと、こちらにおいても成果が出ていることを実感することができた。

2) 中国の様々な文化を学び、日本の文化も伝える

この目的の達成度も高いものだと言えると思われる。中国の様々な文化については、友人になった中国人の学生や、授業中に先生の話の中から読み取り、実際に目にしたのものもあれば、話に聞いただけのものもある。

日本の文化や風習についても、中国人の友人を中心に、多くの人に伝えることができたと考えている。また、これも授業中に先生から日本の文化などを質問として聞かれたりということもあったため、伝えることができる機会が多くあったということも要因の1つだと言える。

学ぶことができたのは中国の文化だけでなく、クラスの他の国から来ている留学生からも多くはないが学ぶことができた。そのため、クラスの留学生にも日本の文化を伝えることができた。

3) 中国語検定や HSK を受け、成果をのこす

この目的に関しては、現在まだ受験することができていないため、達成度を示すことはできないが、近日受験する予定であるため、努力を惜しまずに確実な合格を目指し今後も学習に励むつもりである。

課題と反省

この4ヶ月という留学期間の中で、中国語力の向上というだけでなく、留学の日々の中で、多くのことを学び、経験することができたが大いに感じている。また、この派遣留学に参加しなければ、このような成果を感じることに、海外で語学を学ぶということ、何より大きな人生経験を積むことはできないと考えている。実際に、本当に参加してよかったと思っているし、無事に全員で帰国できたことを嬉しく思っている。

反省としては、完全に理解できていない文法などをせつかくできた中国人の友人に聞くことができず、曖昧な理解のままにしてしまったものがあつたりしたため、全てを理解しきるための努力というものが新たな課題としてできたこと、中国に滞在している間に HSK を受験することができなかったことが今大きな後悔となっている。必ず合格できるよう、これから更に努力して行く。

謝辞

今回、この派遣留学において、丁寧に、親切に指導して下さった楊先生、李先生、張先生、中国に到着した時から最後まで面倒を見て下さった黄微さん、その他大勢の関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。また、今回の派遣留学を担当して下さり、2018年度前期の中国語の授業も担当して下さった、佐藤若菜先生、區建英先生のお二方にも、心より深く感謝申し上げます。最後に、新潟国際情報大学より頂きました奨学金により、今回の留学期間を大変有意義なものにでき、非常に貴重な経験をさせていただけたこと、心から感謝いたします。